

平成 2 2 年度 水道局予算要求方針

【目次】

- 1 平成 2 2 年度水道局予算要求総括表 1
- 2 平成 2 2 年度水道局経営方針 2
- 3 重点的に取り組みを行う主なもの 3
- 4 事務事業の見直し等 5

1 平成22年度水道局予算要求総括表

【上水道事業会計】

水道事業

平成22年度要求総額	29,538,312千円
(平成21年度予算額)	34,521,144千円)
前年度比	4,982,832千円(14.4%)

《主な事業》

(単位：千円)

事業名	平成22年度 予算要求額 A	平成21年度 予算額 B	増減 A - B
配水管更新事業	3,500,000	3,000,000	500,000
震災対策整備事業	321,762	266,110	55,652
災害対策整備事業	149,193	10,000	139,193
北部福岡緊急連絡管事業	126,143	4,852,788	4,726,645
新若戸道路水道連絡管整備事業	200,000	200,000	0
太陽光発電設備設置事業	20,000	0	20,000
省エネルギー対策整備事業	144,500	58,772	85,728
アクアフレッシュ事業	35,000	35,000	0
漏水調査事業	98,000	74,000	24,000

水道用水供給事業

平成22年度要求総額	561,904千円
(平成21年度予算額)	4,078,286千円)
前年度比	3,516,382千円(86.2%)

【工業用水道事業会計】

平成22年度要求総額	2,618,870千円
(平成21年度予算額)	3,070,710千円)
前年度比	451,840千円(14.7%)

2 平成 22 年度 水道局経営方針

【上水道事業会計】

平成 22 年度は、北部福岡緊急連絡管事業の完成により、緊急時に福岡都市圏との相互水融通が可能になるとともに、宗像市など 3 市 1 町へ水道用水を供給する水道用水供給事業を開始します。

「水道事業中期経営計画」(平成 18 年度～22 年度)の最終年度にあたり、その総決算として、財政計画及び事業計画の達成に積極的に取り組みます。

水道事業

昨年のリーマンショックに端を発した世界同時不況の影響が続く中、料金収入の大幅な減少が見込まれますが、さらなる増収対策や経費削減に取り組み、健全財政を維持していきます。

また、安全・安心な災害に強い水道を目指し、配水管更新事業の前倒し実施や水道施設の震災対策など市民密着型公共工事に積極的に取り組みます。

さらに、平成 23 年度の水道給水開始 100 周年に向けた記念事業や太陽光発電など環境首都の実現に向けた事業等を展開します。

健全財政の維持

収益的収支は、5.3 億円程度の黒字を確保

・水道料金収入は大幅に減少(6.0 億円)

単年度資金収支も、0.5 億円程度の黒字を確保

企業債残高は、7.5 億円の縮減

水道用水供給事業

供用開始後 5 ヶ年は 1 日最大給水量が 1.3 万 m³ですが、2 万 m³となる平成 28 年度を目途に単年度の収益的収支を黒字化し、経営の健全化を図ります。

また、供用開始後 35 年を目途に累積欠損金を解消し、送水管の更新に要する資金を確保していきます。

【工業用水道事業会計】

必要な施設の維持・整備を計画的に実施し、安定給水を図るとともに、新規需要の開拓による収入の確保やより一層の経費節減に努め、健全財政を維持していきます。

健全財政の維持

収益的収支は、1.1 億円程度の黒字を確保

単年度資金収支も、0.3 億円程度の黒字を確保

3 重点的に取り組みを行う主なもの

(1) 安全・安心への取り組み

災害や事故に強い水道を目指し、配水管の更新や水道施設の耐震化などにより、安定した給水体制を強化します。

-1・拡充

配水管更新事業

3,500,000千円

安全で安定的な給水を目指し、経年劣化が進んでいる配水管を対象に、計画的に更新します。

-1・拡充

震災対策整備事業

321,762千円

浄水施設などの基幹水道施設の耐震診断を実施するとともに、配水池の耐震化工事を実施します。また、震災時の応急給水拠点の整備を進めます。

- ・ 浄水施設の耐震診断 80,962千円
- ・ 貯水池の耐震診断 15,000千円
- ・ 配水池の耐震化工事 139,000千円
- ・ 緊急遮断弁の整備 81,000千円
- ・ 仮設給水栓の整備 5,800千円

-1・拡充

災害対策整備事業

149,193千円

大雨などによる被害を未然に防ぐため、水道施設の整備・改修を実施します。

-1・継続

北部福岡緊急連絡管事業

126,143千円

安全・安心なライフラインの確保のため、北九州市と福岡都市圏を結び、緊急時に水道水を相互融通する緊急連絡管を整備します。

-1・継続

新若戸道路水道連絡管整備事業

200,000千円

新若戸道路整備に併せて水道連絡管を整備し、主要送水システムのループ化による基幹浄水場間のネットワークを強化します。

(H22:750m整備)

(2) 広域化の推進

-3・継続

水道用水供給事業

561,904千円

平成22年度後半から、宗像市など3市1町へ水道用水を供給する水道用水供給事業を開始します。

平成22年度は、宗像市と新宮町に供給します。

(3) 環境への取り組み

自然エネルギーの有効活用や省エネルギー対策などにより、環境保全と経費削減の両立に取り組みます。

-2・継続

太陽光発電設備設置事業 20,000千円

配水池の上部スペースに太陽光発電パネルを設置して電力の自家消費と余剰電力の売電を行い、低炭素社会を目指す「環境モデル都市」の実現を推進します。

-2・拡充

省エネルギー対策整備事業 144,500千円

送水ポンプを適正規模に更新することや配水ブロックの改善により、エネルギーロスを減らし消費電力を削減します。

-2・継続

クールミスト事業 5,000千円

水道水を活用したミスト冷却装置を設置し、小さなエネルギーで効果的に街を冷やします。

(4) 安心しておいしく飲める水道

蛇口から直接、水を飲む習慣を育てていきます。

-1・継続

アクアフレッシュ事業 35,000千円

小・中学校の児童・生徒が水道水のおいしさを実感できるよう直接式給水への切り替えを促進します。

(5) 100周年記念事業

平成23年度の水道給水開始100周年に向けて、イベントを開催します。

-1・新規

100周年記念事業 6,500千円

100年の歩みと現在の水道について、市民のみなさまに知っていただく展示会の開催などを行います。

(6) 有収率向上対策

漏水を削減し有収率の向上を目指します。

-1・拡充

漏水調査事業 98,000千円

効率的・計画的な漏水調査を行い、有収率向上（漏水削減）を図ります。

-1・拡充

配水管更新事業（再掲） 3,500,000千円

4 事務事業の見直し等

(1) 省エネルギー対策の実施による動力費の削減

永犬丸系送水ポンプは、当初小嶺配水池（標高 96.5m）へも送水するため、揚程 115m で設計されたが、その後、小嶺系送水ポンプが新たに設置されたことにより、現在は永犬丸配水池(75.5m)、山ノ岬配水池(65.0m)の2つの配水池への送水となっており、送水エネルギーを浪費している。

このエネルギーロスを解消するため、永犬丸系送水ポンプを適正仕様のものに取り替え、動力費の削減を図る。

また本事業は、本市におけるエネルギー消費を削減することで、環境モデル都市として、地球温暖化対策の推進に寄与するものである。

永犬丸系送水ポンプの運用開始により、23年度以降、穴生浄水場の消費電力は年間約 1,600 千 kWh、動力費で約 8,300 千円削減され、地球温暖化ガスについては、CO₂ 換算で年間 600 トン削減できる見込みである。

